

私がコンピュータに初めて接したのは、40年前、大学の理科学研究室の「NEC-9801」。マウスもなく訳の分からないキーボードから英語で命令を打ち込んで、くだらないゲームをした。「こんな面倒なモノを何に使うんだ？」というのが感想であった。

教員になってからも「手書き&電卓」の時代が数年あったが、ワープロが出て、すぐに飛びついた。自分の書類が「活字」で印刷されてくることに驚いた。しかし「Windows3.1」が開発された頃から、パソコンを触りはじめ「Windows95」からは自宅はデスクトップ・学校ではノートパソコンで仕事をするようになった。覚えるまでに膨大な時間とお金を費やし、データが全部消える失敗もよくあった。

子供たちには「iPad」が一人一台、与えられる時代になった。アカウントが一人に一つ割り振られ、「GoogleのG-Sweet」や「iPad for School」を使っただけの学びが始まる。e-learningの「ライズ」（電子版問題集）も導入予定である。

昨日、ある会議で同席したICT活用先進校の校長は「あまりの機能の多さ、驚くべき便利さだが、まず我々が使いこなすのが大変だ」と教えてくれた。

生まれたときからスマホをはじめとするICT機器になじんでいる現代の子供たちは、直観的に使えるようになるようだが、頭の固い我々世代は大変だ。

初心者用のGoogleのアプリ活用本を見つけたので、早速購入しようと思ったら総ページ数がなんと1800ページ！もう子供たちに教えてもらう方が早いんじゃないか？と思っている。